

センター試験トラブル続出！ 地歴・公民、理科はこう行われた！

「地歴・公民」は問題冊子等の配付で混乱！ 問題訂正が状況をさらに複雑に！ “谷間の10分”はトイレ退室者が続出！

旺文社 教育情報センター 24年1月18日

1月14日・15日の両日、24年のセンター試験が行われた。全国の試験場で実施上の混乱が見られ、15日夜に大学入試センターが行った記者会見では、トラブルやミスが起こったのは58会場、4,500人以上の受験生に影響があったという。文部科学省は、大学入試センターに徹底した再調査の指示を出しており、これらの数は今後増加する見込みだ。

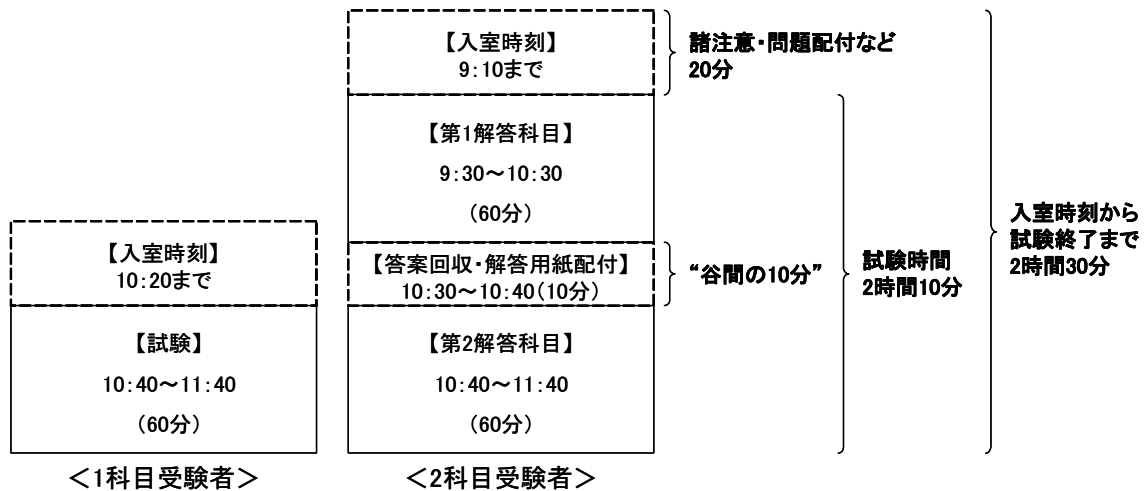
特に問題となっているのは、「地歴・公民」および「理科」の2科目受験者の試験実施に関わるもので、大きく2点に集約できる。まず1点が「地歴・公民」での問題冊子の配付時に起きた混乱、もう1点がトイレ対応の問題だ。

果たして「地歴・公民」「理科」の各2科目受験はどのように行われたのか。旺文社教育情報センターでは、試験終了後の受験生にヒアリングを試み、その実態について以下にまとめた。

1. 「地歴・公民」「理科」2科目受験の時間割

23年までは、「地歴」と「公民」は別々の試験枠で、「理科」は3つの試験枠（グループ）に分けて実施されていた。各試験枠の解答時間は60分で、次の試験枠まで30分の空き時間があった。これが24年には統合され、下の図のようになった。

●24年センター試験「地歴・公民」「理科」の時間割（第1日目「地歴・公民」、第2日目「理科」共通）



24年からは1科目受験者と2科目受験者で試験室が分けられ、時間割も別々になった。注目は2科目受験者の時間割だ。2時間10分に及ぶ「1つの試験時間」が設定されたが、1科目の解答時間は60分で従来と変わらない。科目の解答順は受験生の自由のため、例え

ば世界史 B を第 1 で解答する受験生もいれば、第 2 で解答する受験生もいる。

また、第 1・第 2 解答科目の間には 10 分間（仮に“谷間の 10 分”とする）が設けられ、答案回収（第 1）と解答用紙配付（第 2）が行われた。これはあくまで試験時間の一環であり、休憩時間ではないため私語も厳禁だ。

今回のセンター試験は、すでに発表当初から「地歴・公民」「理科」に関わるいくつかの問題が危惧されていた。複雑化した試験が円滑に実施されるのか。入室時刻から含めると 2 時間 30 分も試験室にいる 2 科目受験生はトイレに行きたくなったらどうするのか。それが“谷間の 10 分”に集中した場合、監督者はどう対応するのか。そして、これらが前年に個別試験で起きた、インターネットを利用した不正事件の再発へとつながりはしないか。こうした不安をかかえたまま、センター試験は実施された。

2. センター試験当日 受験生ヒアリング

【ヒアリング対象】男子受験生 A 君（既卒生／「地歴・公民」「理科」ともに 2 科目受験）

【試験会場】一橋大学

【試験室イメージ】140 名ほど収容。受験者は「地歴・公民」70 名、「理科」90 名ほど

<A. 第 1 日目「地歴・公民」の状況>

①入室時刻～試験開始…盛りだくさんの 20 分！問題冊子等の配付で混乱！

9 時 10 分、受験生の入室時刻と同時に監督者 4 人が入室。主に以下のことを行った。時間割ではこれを 20 分で行うことになっている。

- (1) 黒板に基本事項の板書（試験会場コード、1 時間目の教科名、試験時間など）
（受験票で「地歴・公民」が 2 科目受験になっていない受験生は退室するよう確認も）
- (2) 受験票の写真の上に貼る透明の保護シールの配付、受験生の貼り付け作業
- (3) 携帯電話に関する指示
（携帯電話を机の上に出す⇒アラームを解除する⇒電源を切る⇒カバンの中にしまう）
- (4) 不正行為に関する注意
（不正と思われる行為があった場合にはカードで注意を行う／不正と認められた場合は、退室が命じられる／その場合は受験した科目の得点をすべて無効とする）
- (5) 第 1・第 2 解答科目の説明
（第 1 は最初の 60 分で解答／その後、答案用紙を回収して第 2 の解答用紙を配布）
- (6) 問題冊子・解答用紙（第 1 のみ）・問題訂正（地理 B）の配付
- (7) 解答用紙への氏名・受験番号等の記入

※(5)では“谷間の 10 分”でのトイレに関する言及はなかった。また、試験中に地震などが起こった場合は監督者の指示に従う旨、伝えられた。

この中でも最も時間がかかったのが(6)だ。受験生の座席は、各 2 科目パターン（「地歴のみ 2」「地歴 1、公民 1」など）でまとまって配置されていたようだが、それでも試験室全体では各パターンが混在していた。

地歴と公民は、問題冊子が別々のため、監督者は受験生の座席に貼ってあるシール（右図）と、手持ちの資料で確認しながら問題冊子を配付していた。これでかなりの時間を費やした。

●座席の受験番号シール(イメージ)



問題冊子、解答用紙、問題訂正が一旦配付された後で、足りないものがある場合は挙手するように監督者が言ったところ、複数の受験生が手を挙げた。問題冊子の未配付が中心だったようだ。監督者は混乱気味に、再び座席のシールと手持ちの資料で確認をしながら配付にまわったが、地理 B の問題訂正が状況をさらに複雑にした。A 君自身も含め、その周りでは問題訂正が配られていなかった。

問題訂正は試験開始まで見ないように注意があったにもかかわらず、再度の配付では表向きで机に置かれた。ある受験生が監督者に指摘すると、さらにあわてた様子で裏返しにしてまわった。

この段階で試験開始の 9 時 30 分を超えた。この後(7)を行い、10 分遅れの 9 時 40 分に試験開始となった。

②“谷間の 10 分”…トイレ退室者なし！

第 1 の答案用紙の回収、第 2 の解答用紙の配付、氏名や受験番号等の記入が行われた。この 10 分は全く問題がなかった。なお、トイレに退室した受験生はいなかったようだ。

③第 2 解答科目…トイレ退室者続出！

終了 20 分前ごろに 1 名の受験者が退室したのをきっかけに、退室者が続出した。70 名ほど受験者のうち、6～7 名が交互に退室したように思われた。延長したラスト 10 分でトイレに行った場合、別の試験室ですでに終了した受験生との接触があったのかはわからない。

A 君は第 2 の開始直後からトイレに行きたくなかったが、気後れしたのと、解答時間を削りたくなかったため我慢した。同様の受験生も多かったようだ。

結局、試験終了が 10 分延長され、さらに回収等に 5 分かかったため、受験生は 2 時間 45 分試験室にいたことになる（9 時 10 分～11 時 55 分）。なお、昼休みが 10 分短縮され、以降の時間割は当初予定どおりに行われた。

<B. 第 2 日目「理科」の状況>

①入室時刻～試験開始…滞りなく試験スタート！

前日とは異なり、入室時刻の 10 分前（9 時）にはすでに監督者 4 名が入室し、黒板の板書も終えていた。問題冊子の配付も「理科」は 1 冊のため、滞りなく完了した。理科総合 B で問題訂正があったが、黒板に板書された（「地歴・公民」は紙で配付）。こうして第 2 日目は時間割どおり、9 時 30 分に試験が開始した。

②試験開始～試験終了…“谷間の 10 分”にトイレ退室集中！

トイレ退室は、第 2 の試験時間中に続出した初日とは異なり、2 日目は“谷間の 10 分”に集中し、5 名ほどが退室した。A 君の近くの受験生が手を挙げたところ、監督者にトイレ

は1名ずつなので待つように言われていた。

A君自身は第2の試験時間中にトイレに行った。席から監督者に付き添われて試験室を出ると、廊下には別のスタッフがいて引き継がれた。トイレが「1名ずつ」なのは、このスタッフが1名のためだと推測される。ちなみにスタッフの同行はトイレの外の廊下までで、トイレではA君はひとりだった。

3. 旺文社へ寄せられた受験生からのメール

当社の大学進学応援サイト『パスナビ』には、ある受験生からセンター試験について、次のようなメールが送られてきた。

(前略)

私の受験した試験室(大阪市立大学、●号館試験場、●号室)で、理科・社会科2科目受験時、第1解答科目終了後の10分間の答案回収・配布時間に、同じ学校同士の2、3人で、数グループ(8人程度)が集団で同時にトイレ退室しました。2人の試験監督者も、試験室のドアの前までしか立ち会わず、すぐに戻ってきました。

私が思うには、同じ学校の人が多数同時にトイレに行くというのは不思議でなりません。

試験室で試験開始を待っている私にとっては、試験監督者もトイレについて行っていないので、トイレ内で、試験問題についての情報交換や、携帯電話で解答を確認する等の行為を行うことも容易であると思いますし、行われた可能性が高いと感じています。

公平性が重要なセンター試験で、このような不正行為を行う隙をつくってしまっているのでしょうか？

私は、同じ受験生として、そのような行為は許せません。

(後略)

大学に事実確認をしたところ、この試験室では理科の“谷間の10分”に6名が同時にトイレに退室したと記録されているようだ。一橋大でのA君の対応と同様に、廊下には別スタッフが待機していて、トイレまで引率した。席に戻るまでの間、受験生の間で会話が交わされなかったことも、大学はこのスタッフから確認済みで、「不正はなかったと判断している」という。ただし、やはり一橋大と同じく、スタッフはトイレの中には入らずにドアの外で待機し、6名が同時にトイレにいるというシチュエーションになっただろう。メールをくれた受験生の不信感と不満は非常に強い。



試験実施直後の今、当日の運営上の問題ばかりが指摘されている。しかし今回のセンター試験から新たに導入された、出願時の「事前登録制」や、「第1解答科目」制度についても改善を求める声は多い。特に「第1解答科目」により各大学の入試科目が複雑化した影響は、国公立大の2次出願が始まるにあたって、これから表面化してくるだろう。

いずれにしても、外的要因に起因する受験生の不安材料を取り除き、受験生が100%の力を出し切れ、それを純粋に計る試験へと改善されていくことを期待したい。